

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
社会的養護内容 Child Welfare Practice		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会的養護				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登	本館2階	火・水・木・金曜日の9時～17時		授業中に指示します
授業の概要				
保育に欠ける子どもたちの生活の場である児童福祉施設（入所型・通所型）における保育士に必要な知識や業務内容について学ぶ。そこで求められる保育士の支援は子どもの最善の利益に沿ったものでなければならないが、受講者のほとんどは今までに施設での生活体験や実習体験が無いと思われるので、その理念や支援内容を具体的に理解してもらう。				
授業の目標				
この授業では事例を基に、 ①社会的養護における児童の権利擁護や保育士の倫理について説明できるようにする。 ②個別支援計画、日常生活支援、自立支援等の基礎的内容について説明できるようにする。 ③保護者の願いや地域とのかかわりについて理解し、保育実践に生かす態度を身に付けることができるようにする。				
授業の方法				
毎時間事例を用意するので、①自分の考えをできるだけ明確にまとめ、②グループの中で発表し合い・他者の考えを聞くことにより、③自分では気づかなかった視点があったらそれを吸収し自分の考えを深めてまとめなおす授業形態をとる。				
学習の成果（学習成果）				
すでに全員が社会的養護を受講し少なからず知識や興味を持っているものの、知識不足による不安もあると思う。この授業で学ぶことにより、 ①支援の考え方や具体例を、支援の理念的背景を含めて説明できる。 ②学びを保育実習Ⅰ福祉施設、保育実習Ⅲに生かし楽しむことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業内容、評価法の説明） 特別に支援を要する子どもの調査報告			
第2回目	特別に支援を要する子どもの保育の現状報告1（保育実習Ⅰ保育所を振り返って：全体的な支援）			
第3回目	特別に支援を要する子どもの保育の現状報告2（保育実習Ⅰ保育所を振り返って：特別に支援を要する子どもの支援）			
第4回目	児童養護の過程と個別支援計画			
第5回目	保護者の気持ちを理解した支援を考える（ゲストスピーカー：施設に子どもを入所させている保護者）			
第6回目	保育士の専門性について考える1（子どもの心に寄り添う支援）			

第7回目	日常生活支援について考える 1 (人権擁護)
第8回目	施設の小規模化と地域のかかわりについて考える (被虐待児の事例)
第9回目	保育士の倫理について考える 1 (愛の鞭)
第10回目	児童の最善の利益について考える (乳児院における養育担当制と過剰児)
第11回目	日常生活支援について考える 2 (発達保障)
第12回目	保育士の専門性について考える 2 (子どもの最善の利益)
第13回目	日常生活支援について考える 3 (発達に応じた子どもとの適切な距離感)
第14回目	保育士の倫理について考える 2 (発達に応じた子どもとの距離感)
第15回目	ノーマルな生活とは

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート	15%	第5回のゲストスピーカーの話を読まえたような職業人になりたいか、800字以上の感想文を提出してください。
調査報告書	15%	保育実習 I (保育所) での「特別に支援を要する子どもの調査」を提出してください、5点。 保育実習 I (福祉施設) でどんなことを実習課題とするのかまとめる、10点。
小テスト	10%	第4、15回の講義に対する穴埋め問題10題、論述1題の小テストです。穴埋めは10正解で3点、9～8正解で2点、7～6正解で1点。論述課題は自分の言葉でまとめられていれば2点です。
試験		
発表内容 (態度含む)	60%	第1、2、3、6、7、8、9、10、11、12、13、14回のワークシートで、自分の考え3点、みんなの発表を聞いて自分の考えが深められていれば2点をつけます (5点×12回=60点)。
その他		

教科書と参考図書

毎時間資料とワークシートを用意します。

履修上の留意点・ルール

事例に対し、他者の意見も尊重して自分の考えを述べるのが大切です。